

平成27年度
事業報告書

公益財団法人エイズ予防財団

事業部門

I 寄付金等による事業

1 普及啓発事業（公1・普及啓発事業）

(1) ACジャパン支援広告

ACジャパンの支援を受け、HIV検査受検促進を主たる目的とした多角的広報活動を展開した。俳優の松田龍平を起用した広告「受ける、理由。」により、HIV感染の早期発見及び早期治療についてのメッセージを発信した。支援キャンペーンは6月末までであった。

広告媒体：テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、交通広告、屋外看板、自治体等

(2) コミュニティアクション2015

「世界エイズデー」キャンペーンテーマ「AIDS IS NOT OVER だから、ここから」の下、厚生労働省や地方自治体のキャンペーンと協調しつつ、同時並行的に進めるコミュニティ主導のキャンペーンに参加した。

実施期間：平成27年10月16日（金）～12月15日（火）

実施内容：共通課題による全国的なエイズイベント開催の促進及び全国のエイズイベントの情報集約と広報支援

また、日本国際交流センター（JCIE）の作成した、MTVステイニングアライブ財団エイズ予防啓発ビデオの広報に協力した。若年層には理解や予防行動のきっかけを、エイズ対策関係者にはビデオ映像の有効活用を促した。イベント主催者や行政担当者が適切に紹介できるよう、ビデオに関する広報資料を作成し、ビデオ送付時に同封した。

(3) 啓発用パンフレット・コンドームの作成・提供

HIV感染症の基礎情報、HIV感染予防の具体的な方法等、HIV感染予防啓発のためのパンフレット制作し、自治体・保健所・企業・学校・NGOなど希望する団体等に無償提供した。また、MSM向け予防啓発用コンドームを作成し、各コミュニティセンターに提供した。

①「HIV/エイズの基礎知識」5万部、子どもの未来支援委員会の助成金により作成した。

②「HIV感染症・エイズ2015」5万8千部

③「Yes, Safer Sex（MSM向けコンドーム）」1万7千個

(4) 「HIV検査普及週間」「世界エイズデー」に合わせた啓発活動

ア 「HIV検査普及週間」キャンペーン

厚生労働省主催イベント「レッドリボンライブ2015@ニコぶくろ〈HIV検査に行ったトモダチがニコニコしてるんだが（HIVって何だろう？）〉」に合わせ、街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成27年5月31日（日）14時00分～16時00分

場 所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 3,000セット

イ 「世界エイズデー」キャンペーン

厚生労働省主催の世界エイズデーイベント「RED RIBBON LIVE 2015」に連動させ街頭キャンペーンを実施した。啓発グッズとして、世界エイズデーポスターをあしらった使い捨てカイロを作製、配布した。

日 時：平成27年11月28日（土）13時00分～15時00分

場 所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット3,000セット

ウ STOP AIDS ACTION 2015（ベネトン×オカモト）

世界エイズデーに合わせ、アパレルブランド ベネトン及びコンドームメーカーオカモト㈱との共催により街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成27年12月6日（日）15時30分～17時30分

場 所：表参道・日本看護協会ビル前（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット3,000セット

エ HIV検査普及啓発用ポスターの配布

「HIV検査普及週間」に向けて、ACジャパン支援広告「受ける、理由。」のデザインポスターを地方自治体に配布した（B3判6,000枚）。

（5）Act Against AIDS共同事業

AAA運営事務局と共同し、「正しい知識を身につけること」がHIV感染の予防になり、感染者・患者への偏見、差別も生まないという呼びかけを基本として、エイズ知識啓発パンフレット、ポスターを配布した。

（6）大阪におけるエイズ予防啓発活動

ア 大阪エイズウィークス2015の実施

関西地域でのHIV感染症／エイズへの関心を喚起するため、世界エイズデーの前後数週間を大阪エイズウィークス2015とし、エイズに関する様々な領域で活動するNPO・団体・個人が、自治体・企業・メディア等と連携しながら、それぞれの得意分野でそれぞれの対象者に焦点を当てたきめの細かい企画が行われるよう働きかけた。

共同街頭キャンペーンとして、大阪府・市等が実施した御堂筋オータムパーティ2015に参加、ブース出展及びPRステージなどによりエイズ予防を呼びかけた。

名 称：御堂筋オータムパーティ2015（御堂筋ワンダーストリート）

日 時：11月29日(日) 14時～17時

配布物：パンフレット、啓発メッセージ付カイロ、コンドーム等 5,000セット

イ シンポジウムの開催

大阪エイズウィークスにおけるエイズ予防財団独自の企画として、シンポジウム「AIDS IS NOT OVER だから、ここから—ブラジルの経験に学ぶ！市民が社会を動かすために、ここから私たちは何をすべきか!？」を実施した。

演 者：ジョゼ・アラウージョ・リマ・フィーリョ（ブラジル、エイズ活動家）

濱中洋平（クライシスサポートセンターnolb代表）

白阪琢磨（大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター長）

開催日時：12月6日（日）13時30分～16時30分

会 場：大阪医療センター緊急医療災害棟 講堂

共 催：独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

ウ 男性を対象とした啓発活動

わが国におけるHIV感染症・エイズの拡がりには男性に集中していることから、男性を対象に、HIV検査受検促進のための啓発活動を実施した。

(1)男性のHIV検査受検促進ポスター掲示

期 間：2015年12月1日～2016年1月3日

場 所：①御堂筋線なんば駅（コンコースサインボード、1日利用人数約59,200人）

②御堂筋線梅田駅（サイネージ、1日利用人数約94,700人）

内 容：HIV感染を自分の問題として考えてもらい検査を受けてもらえるよう「身近な人から HIV 検査を勧められたら」をコンセプトに、意外性のあるシーンで受検を勧める内容。

(2)男性向け検査受検促進メッセージ記載カイロの配布

①御堂筋オータムパーティ2015御堂筋ワンダーストリート

日 時：11月29日（日）14時～17時

個 数：5,000個

②日本プライベートフットボール協会・西日本支部決勝

日 時：1月24日（日）13時半～

会 場：エキスポフラッシュフィールド（吹田市）

個 数：480個

③日本プライベートフットボール協会・全日本選手権

日 時：2月21日（日）13時半～

個 数：480個

(7) 東京エイズウィークスへの参加

東京エイズウィークスに参加し、エイズ関連映画上映会を実施した。

タイトル：『We Were Hereあの頃、僕らは—いま、語られるエイズの記憶』

日 時：11月28日（土）15時～17時

会 場：国立国際医療研究センター5階大会議室

出 演：鬼塚直樹（UCSF Global Health Sciences）ほか

共 催：東京国際レズビアン&ゲイ映画祭

内 容：原因不明の病気が出現した1980年前後、サンフランシスコの状況をインタビューしたドキュメンタリー映画の上映及び当時を知る者によるトーク。

（8）その他啓発普及事業

地域で行われているイベント等にブースを設置し、パンフレット、レッドバンド等の配布を行うとともに、募金活動を実施した。

ア 地域イベント

「第16回アール・エスポワール展」（世田谷美術館、12月）／「ハートアートコミュニケーション・第19回エイズチャリティ美術展」（国立新美術館、1～2月）

イ ブース出展による広報

①「RED RIBBON LIVE 2015」ブース設置

日 時：平成27年11月27日（金）17時30分～21時00分

場 所：ステラボール（東京都港区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット750セット

備 考：世界エイズデーポスターコンクールの入賞作品を展示

②「第28回日本エイズ学会学術集会・総会」ブース設置

日 時：平成27年11月30日（月）～12月1日（火）

場 所：東京ドームホテル（東京都文京区）

配布物：世界エイズデーポスター、予防啓発グッズ、パンフレット他

ウ 企業とコラボレートした啓発活動

①「UNION FES 2015」

日 時：平成27年8月5日（水）14時30分～19時

場 所：新木場STUDIOCOAST（東京都江東区）

参加者：約1,500人

内 容：学生が企画し、自ら実施する夏のイベントUNION FES 2015に、オカモト及びベネトンとともに参加、パネル展示やクイズなどによりHIV啓発を呼びかけた。

②「RED RIBBON CUPバブルサッカー大会」

日 時：平成27年11月28日（土）

場 所：東京タワーメディアセンター（東京都港区）

参加者：10チーム87名（ほか見学者20名以上）

内 容：バブルサッカー大会という新しいスポーツ・イベントを通し、若者にHIV感染予防を呼びかけた。

2 助成事業（公2・助成事業）

（1）エイズ予防財団助成事業

エイズに関する啓発普及活動を行うボランティア団体やNGOに対し、その活動を支援するため助成金を交付した。平成27年1月に公募を行い、この事業の公正中立な実施のために設置された助成事業選考委員会による審査、選考結果を踏まえて助成を行った。対象事業、助成団体及び交付金額は、以下のとおり。

ア エイズ患者・HIV感染者等に対する社会的支援事業

1	NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	837,360円
---	-----------------------------	----------

イ エイズ予防に関する啓発普及事業

2	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会	650,000円
3	PLANET（HIVとともに生きる会）	70,000円
4	非営利活動法人関西エイズ対策協議会	200,000円

（2）ポジティブ・アクション助成事業

ヴィーブヘルスケア株式会社からの寄付金を基に、社会的にインパクトのある取り組み、活動を行うNGO等を支援するポジティブ・アクション助成事業を実施した。

助成の対象となる事業は、①同性愛者等を対象にしたエイズに関する正しい知識の普及等を推進する事業、②中学生・高校生を中心とするティーンエイジャーを対象にした同種事業の二つである。なお、同性愛者等を対象にした事業に対しては申請がなかった。

ア ティーンエイジャーを対象にした事業

1	NPO法人akta	1,000,000円
---	-----------	------------

3 情報収集提供事業（公4・調査研究事業）

第29回日本エイズ学会学術集会・総会等に職員を派遣するなど、国内外のHIV感染症・エイズに関する情報の収集に努めた。

4 国際協力事業（公6・国際協力事業）

（1）来訪者の受け入れ

韓国保健省CDCからの訪問を受け入れ、日本のエイズ発生動向、エイズ予防指針、エイズ予防財団の活動などについて講義を行った。

日 時：平成27年10月20日（火）13時00分～13時45分

場 所：財団会議室

人 数：4名

（2）ASAP（アジア太平洋エイズ学会）の団体会員

ASAPへの団体会員としての関わりを継続した。

5 抗ウイルス療法支援事業（公1・普及啓発事業）

（1）抗HIV治療ガイドラインの作成

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班の協力を得て、同班の作成した『抗HIV治療ガイドライン』を増刷し、配布した（A4版2,000部、縮刷版1,500部）。

（2）DVD「HIV職業曝露の予防と対策」の頒布

HIVの職業曝露予防対策の周知等を目的に作成した啓発用DVD「HIV職業曝露の予防と対策」の頒布を継続した。

6 ファンドレイジング活動（公益目的共通事業）

上記公益事業を実施するため、関連企業等に対し寄付金の募集を行った。

II エイズ予防対策事業（厚生労働省委託事業）

1 血液凝固異常症実態調査事業（公4・調査研究事業）

血液製剤を通じてHIVに感染した血友病患者を中心に血液凝固異常症の病態を把握し、治療の向上と生活の質の向上に寄与することを目的として、血液凝固異常症患者を治療している全国の医療機関で調査を実施した。1,259施設、1,440担当医等に調査票を送付し、670施設、789担当医等から4,540の症例について回答を得た。

調査結果報告書は、回答のなかった医療機関を含め、すべての担当医及び患者等に提供し、フィードバックすることにより患者の治療とQOLの向上を図った。

なお、調査の精度及び専門性を確保するため、医療関係者及び患者で構成する全国調査運営委員会を設置して実施した。

2 HIV感染者等保健福祉相談事業（公5・相談事業）

（1）エイズ中核拠点病院における相談事業

エイズ中核拠点病院（37機関）に相談員を配置し、HIV感染者・エイズ患者等への心理的援助を行った。今年度から新たに本事業を開始した医療機関は仙台医療センター、和歌山県立医科大学附属病院の2機関であった。

また、相談員のカウンセリング技術向上及び均てん化を図るため、全国の相談員を一室に招集し、国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター（以下「ACC」）の医師等による講義、地方ブロック拠点病院カウンセラー等による指導、事例検討等を行うとともに、情報・意見交換を行った。

実施日：平成27年10月24日（土）～25日（日）

場 所：あすか会議室東京日本橋（東京都中央区）

参加者：38人

(2) HIV検査事業

ア 厚生労働省主催イベントに合わせた臨時HIV検査を実施した。

○HIV検査普及週間

実施日：平成27年5月31日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：52人

○世界エイズデー

実施日：平成27年11月28日（土）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：64人

イ 「HIV検査・相談窓口」における情報サービスの実施

全国の保健所等における検査日時や場所、予約の方法、電話相談等についての情報を収集し、エイズ予防情報ネット（以下「API-Net」）を通じて提供した。

(3) 専門相談員による電話相談

当財団内に電話相談室を設置し、専門相談員による電話相談を実施した（フリーダイヤルで、月曜から金曜までの毎日、午前10時～午後1時、午後2時～5時）。

平成27年度電話相談受付件数：6,482件

3 HIV診療医師情報網支援事業（公1・普及啓発事業）

HIV感染症の臨床医等による交流等の連携を図るため各ブロックに設置された情報網に対し、財政的支援を行った。各情報網では、症例検討会や講演会の開催、ネットワーク紙の発行等のほか、今後の取り組みを共有するための会議を開催した。

支援先情報網（6カ所）

東北HIV診療ネット／東海ブロックエイズ診療拠点病院連絡協議会／北陸HIV臨床
談話会／関西HIV臨床カンファレンス／岡山HIV診療ネットワーク／九州ブロック
エイズ診療ネットワーク

4 エイズ治療拠点病院医療従事者海外実地研修事業（公2・助成事業）

エイズ治療拠点病院における診療能力の向上及びHIV感染症／エイズ診療のリーダー的役割を担う人材の育成を図るため、エイズ診療の経験豊富な米国サンフランシスコ市の医育機関に医療従事者を派遣し、臨床実地研修を実施した。

研修先：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校

日 程：平成27年11月7日（土）～22日（日）

受講者：6人（医師3名、歯科医師1名、薬剤師2名）

5 エイズ国際会議研究者等派遣事業（公2・助成事業）

国内研究者、NGO職員、医療従事者等で所定の条件を満たす者を第12回アジア太平洋地域エイズ国際会議に派遣し、各国関係者との意見交換及びエイズに関する最新の知見を得ることにより、エイズ対策の広範な充実、活性化を図ることを目的に事業を実施した。平成27年8月10日に派遣希望者の募集開始、9月16日に派遣者3人を決定したが、会議開催直前に延期が発表され、新たな開催日（平成28年3月12日～14日）と派遣予定者の都合が合致しなかったため、派遣には至らなかった。

6 エイズ国際協力計画推進検討事業（公4・調査研究事業）

東南アジア地域等におけるわが国のHIV感染症・エイズ対策分野での国際協力計画作成のための提言を行うことを目的に、集中流行期にあるマレーシアを訪問し、HIV感染症・エイズまん延状況、エイズ予防啓発活動等の実地視察及び現地担当者との意見交換等を行った。

訪問地：マレーシア クアラルンプール市

日程：平成28年3月9日（水）～13日（日）

調査者：嶋根卓也（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 研究者）

阿部憲介（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 薬剤師）

柏崎正雄（エイズ予防財団）

7 エイズ予防情報センター事業（公4・調査研究事業）

WEBサイト「エイズ予防情報ネット」（API-Net）を運営し、HIV感染者・エイズ患者やその家族、一般国民、医療関係者等に対し、エイズに関する啓発情報、HIV検査情報、NGO活動情報等を提供した。年間の主な更新回数は38回、アクセス件数は133,625件であった。

8 青少年エイズ対策事業

（1）研修担当者育成事業（公3・人材育成事業）

性に関する意思決定や行動選択に係る能力が形成過程にあるとして個別施策層とされる高校生・中学生に対する、学校と地方行政とが連携した効果的なHIV感染症・STI予防教育を実践するため、全国の地方自治体・保健所等の職員等を対象とした研修会を実施した。

実施日：平成28年1月29日（金）

場所：家の光会館（東京都新宿区）

受講者：46人

（2）「世界エイズデー」ポスターコンクール（公1・普及啓発事業）

全国の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及び一般を対象に、HIV感染症・エイ

ズ予防及び差別・偏見の解消を呼びかけるポスターコンクールを実施した。選考は、デザインの専門家、有識者等によるポスターコンクール審査会を設置して行った。

受賞作品はAPI-Netで公表するとともに、厚生労働省主催の世界エイズデーイベント会場においてパネル展示した。また、世界エイズデー啓発ポスター用として選定した作品は、厚生労働省により印刷され、全国に配布された。

募集期間：平成27年4月24日（金）～9月4日（金）

応募総数：429点、第1次審査通過作品84点

結果：小・中・高・一般の各部門につき最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作3点を選考した。また、各部門の最優秀賞作品の中から1点を「世界エイズデー」啓発用ポスターとして選定した。

9 エイズ治療啓発普及事業（公1・普及啓発事業）

（1）情報提供誌の発行

エイズに関する治療、研究等の情報を全国のエイズ治療拠点病院の医療従事者等に提供し、診療支援を行うことを目的とした情報提供誌を作成、配布した。

タイトル：HIV感染予防における長期間作用型暴露前予防（PrEP）薬の研究
（Long-Acting PrEP Agents in HIV Prevention）

講演者：デイヴィッド・ホー（David D. Ho, M.D. Aaron Diamond AIDS Research Center, The Rockefeller University）

監修：岡慎一（第29回日本エイズ学会学術集会・総会会長、ACCセンター長）

備考：第29回日本エイズ学会学術集会・総会公開シンポジウムの基調講演をまとめたものである。

発行部数：500部

（2）「世界エイズデー」キャンペーンテーマ検討会議の実施

「世界エイズデー」キャンペーンテーマの決定プロセスにできるだけ多くの人に関与してもらうよう、API-Netによる意見募集、フォーラムを開催の後、選考委員によるテーマ検討会議での議論、ワーディングを経てキャンペーンテーマ案を策定し、厚生労働省に提出した。

（3）HIV検査受検促進のための啓発情報提供

6月のHIV検査普及週間及び12月1日の世界エイズデーに際し、各自治体で実施されるイベントや臨時HIV検査などについて情報収集し、API-Net特設ページにより公開した。また、世界エイズデーにおいては、実施した取り組みについて報告を求め、公開することにより、次年度以降の他自治体の参考に資した。

10 ボランティア指導者育成事業（公3・人材育成事業）

エイズNGO活動におけるリーダー養成のため、NGO指導者研修会を開催し、HIV感染

症の最新治療の学習、専門家との意見交換の他、NGOの組織基盤強化のための講義とワークショップを行い、持続可能な活動のための経営スキルの向上を図る講座を提供した。

実施日：平成28年2月27日（土）～28日（日）

場 所：飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

受講者：10人

11 相談員養成研修事業（公3・人材育成事業）

（1）HIV／エイズ基礎研修会

HIV感染症／エイズに関する基本的な知識及びHIV陽性者や支援活動への理解の向上を図るため、次のとおり研修会を実施した。

目 的：HIV感染症の流行状況、HIV感染症の病態と治療を学ぶとともに、HIV陽性者、セクシュアリティ、HIV感染症の予防教育の実際を知る。

対 象：エイズに関する業務・活動に携わる（又は携わろうとしている）行政担当者、医療関係者、教育関係者、介護関係者、企業、NGO、学生等

実施日：平成27年6月19日（金）

場 所：家の光会館（東京都新宿区）

受講者：75人

（2）HIV検査担当者向け研修会

HIV感染症／エイズに関する相談体制の質の向上・充実を図るため、次のとおり研修会を実施した。

目 的：HIV感染症の病態・治療、HIV検査、社会福祉制度、セクシュアリティ、カウンセリングに関する知識や対応ポイント等について学ぶとともに、検査相談時対応の演習を行う。

対 象：HIV検査相談業務に携わる保健所、保健センター、クリニックを含む医療機関及びその他機関の担当者

実施日：東京 平成27年7月2日（木）～3日（金）

大阪 平成27年10月15日（木）～16日（金）

場 所：東京 飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

大阪 天満研修センター（大阪市北区）

受講者：東京 76人、大阪 81人

12 中核拠点病院連絡調整員養成事業（公3・人材育成事業）

エイズ中核拠点病院の看護師等を養成し、HIV診療に必要なチーム医療の調整及び地方ブロック拠点病院やエイズ治療拠点病院との調整に必要な能力を習得させることにより、地方ブロック拠点病院に患者等が集中する事態の解消並びに適切な医療の提供を図った。

(1) 研修事業

エイズ中核拠点病院においてHIV医療に係る診療科間連携調整等のチーム医療に従事する看護師等を対象とし、6週間の研修を実施した。

研修期間中初期の4週間はACCの実施するコーディネーターナース研修への参加とし、その後の2週間は地方ブロック拠点における実地研修を行った。

受講者：仙台医療センター 1人、東京慈恵会医科大学附属病院 1人

(2) 全国中核拠点病院連絡調整員会議

前記のチーム医療に従事する看護師等の連絡調整員（同様の役割を担う者を含む。）等を対象とする会議を開催した。

ACCの医師によるHIV診療に係る最新情報の講義のほか、HIVコーディネーターナースと院内他診療科専門ナースによる連携事例紹介、地方ブロック拠点病院看護実務者との合同により、各病院・地域の現状報告、情報提供などを行った。

実施日：平成28年3月11日（金）～12日（土）

場 所：国立国際医療研究センター研究所会議室

参加者：35機関40人

13 HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業

治療の進歩により長期存命が可能となったHIV感染者・エイズ患者に対する在宅医療・介護の環境を整備するため、訪問看護を行う看護師等への実地研修、在宅医療・介護を行う医療機関等への支援チーム派遣、地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師等へのHIV医療講習会を実施した。

(1) 実地研修事業（公3・人材育成事業）

訪問看護・訪問介護サービスを提供している事業所の看護師や介護職員をエイズ中核拠点病院等に1週間程度派遣し、HIV感染症／エイズ医療に係る実地研修を実施した。研修を実施した病院は18病院で、受講者数は73人であった。

(2) 支援チーム派遣事業（公5・相談事業）

エイズ治療の専門的知識を有する支援チームをエイズ中核拠点病院に設置し、在宅医療・介護を行う医療機関等の要請に基づいて同支援チームを派遣する事業を実施した。支援チームを設置した病院は18病院であり、そのうち支援チームを派遣したのは石川県立中央病院（1回）、名古屋医療センター（1回）、愛媛大学医学部附属病院（3回）、熊本大学医学部附属病院（2回）であった。

(3) HIV医療講習会の開催（公3・人材育成事業）

地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師、看護師等を対象として、HIV感染症／エイズに関する知識や感染予防等に関する講習会を都道府県医師会、同歯科医師会の協力を得て実施した。講習会を実施した医師会は9府県、歯科医師会は13道府県であった。

Ⅲ 同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業

(厚生労働省委託事業、公1・普及啓発事業)

わが国における近年のHIV感染者・エイズ患者の発生動向を踏まえ、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」に基づき、個別施策層である同性愛者等に対してNGO等による当事者性のある活動を支援することにより、エイズに関する正しい知識の普及等を推進するため、同性愛者等向けコミュニティセンター（以下「センター」）を、仙台市青葉区国分町、東京都新宿区新宿2丁目、名古屋市中区栄、大阪市北区堂山町、福岡市博多区住吉、沖縄県那覇市壺屋の6地域に設置し、以下の事業を行った。実施に当たり、事業活動方針の協議や事業評価のため、研究者等による推進協議会を設置した。

(1) 地域ボランティア団体（CBO）による運営

センターの運営は、上記研究班においてコミュニティベースの啓発活動の実績を示してきた、地域の男性同性愛者等で構成するCBOの協力を得、同性愛者等に訴求性のある効果的な啓発活動を推進した。コミュニティセンターとしての機能は次のとおりである。

ア ゲイ・コミュニティにアクセスする人々や、その他のMSMが自由に立ち寄ることができ、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる拠点の提供（啓発資材の収集・提供、コミュニティ情報の収集・提供、情報収集のためのインターネット利用の提供など）

イ HIV感染症／エイズ、セクシュアルヘルスの情報発信を目的とした交流会・勉強会・研修会等の実施

ウ 地域のHIV感染症／エイズの状況をゲイ・コミュニティ等に還元する成果報告の会場提供

エ 地域のゲイ・コミュニティを活性化するための会場提供

オ セクシュアリティや性、STI/HIVなどに取り組む他の関連機関との協働、連携の拠点

(2) HIV感染症・エイズ予防啓発のための資材作成と配布

同性愛者等のセクシュアル・マイノリティやHIV感染者に対する偏見・差別については、地域によって異なった背景があるため、対象地域の特性に配慮しつつ、訴求性のある啓発資材等を開発し、普及を図った。

(3) 同性愛者等におけるHIV感染症・エイズの予防や支援のための研修会の実施

地域の同性愛者等に対する偏見や差別を解消するため、また、HIVに関する相談やHIV検査等を同性愛者等が安心して受けられる環境を構築するため、保健医療従事者、教育関係者、自治体職員等を対象とする研修会を実施した。

(4) 相談事業

同性愛者等の性的指向を踏まえた、感染予防やHIV検査機関等に関する相談、情報提供を行った。また、相談件数、内容等の集計を行った。

(5) その他の事業

本事業は、同性愛者等を対象としている商業施設が集積する地域において啓発活動を行う拠点を設置するものであり、各種施設や企画イベントと連携することで、より一層の効果が期待されるため、6地域で活用できるコミュニティセンター紹介フライヤーやポスターを作成、配布した。また、商業施設を中心としたコミュニティに出入りすることのない同性愛者等に対しても、啓発イベント、インターネット、各種メディア等を通じて啓発普及を図った。

IV エイズ対策研究推進事業 (厚生労働科学研究費補助金)

1 エイズ対策研究推進事業運営委員会の設置

エイズ対策研究推進事業に対する応募申請の審査、採択を行うため、エイズ対策研究推進事業運営委員会を設置した。委員会は2回開催した。

委員：石川信克（結核研究所）／山内和志・宇都宮啓（国立国際医療研究センター）
／山内和志・中山 鋼（国立感染症研究所）／永井美之（名古屋大学）／中村安秀（大阪大学大学院）／倉田毅（国際医療福祉大学塩谷病院）

2 エイズ対策政策研究推進事業

(1) 外国人研究者招へい事業 (公2・助成事業)

招へい人数 1名 (国別) イタリア 1名

(2) 若手研究者育成活用事業 (公2・助成事業)

採用人数 19名 地方ブロック拠点病院等 (6機関)

(3) 研究成果等普及啓発事業 (公1・普及啓発事業)

件名：「地域においてHIV陽性者と薬物使用者を支援する研究班」研究成果発表会

日時：平成27年11月29日（日）12時45分～14時15分

会場：国立国際医療研究センター研修センター5階大会議室（東京都新宿区）

参加者数：154名

V 地方ブロック拠点病院医療従事者等確保事業 (厚生労働省補助金)

下記業務実施にふさわしいと判断される者7人を非常勤職員として採用し、エイズ地方ブロック拠点病院7カ所に出向させた。

業務内容

研修：ブロック内の拠点病院等の医療従事者に対する最新の治療方法に関する

研修会、症例検討会、臨床実地研修等を実施する。

情報：エイズ医療ネットワークの活用等により、ブロック内の拠点病院等、患者・感染者からの診療に関する相談への対応、情報の収集、提供を行う。

出向先は次のとおりである。

北海道ブロック：北海道大学病院

東北ブロック：国立病院機構仙台医療センター

関東・甲信越ブロック：新潟大学医歯学総合病院

北陸ブロック：石川県立中央病院

近畿ブロック：国立病院機構大阪医療センター

中国四国ブロック：広島大学病院

九州ブロック：国立病院機構九州医療センター

VI その他事業

(1) 名義の付与

出版社等の発行する小冊子、リーフレット等の監修を行い、監修名義を付与した。

自治体・企業・団体等が主催するHIV感染症／エイズに関する講演会、チャリティイベント等に後援名義を付与した。

管 理 部 門

1 理事会

(1) 第16回理事会

日 時：平成27年6月8日（月）16時00分～17時30分

場 所：エイズ予防財団会議室

議 案：平成26年度事業報告の承認の件／平成26年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算)及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件／代表理事の選定の件／理事長の選定の件

報 告：第15回理事会（平成27年3月23日）以降の職務執行の状況

(2) 第17回理事会（書面評決）

日 時：平成28年3月15日（火）

議 案：理事候補の推薦について／決議の省略の方法による評議員会を招集する件

(3) 第18回理事会

日 時：平成28年3月28日（月）16時00分～17時30分

場 所：エイズ予防財団会議室

議 案：平成28年度エイズ予防財団助成事業及びポジティブ・アクション助成事業助成対象者の決定の件／平成28年度事業計画・収支予算の承認の件

報 告：平成27年度収支決算見込み／第16回理事会（平成27年6月8日）以降の職務執行の状況

2 評議員会

(1) 第5回評議員会（書面評決）

日 時：平成27年6月30日（火）

議 案：平成26年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／理事の選任の件／監事の選任の件／評議員の選任の件

<附属明細書の作成について>

平成27年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので、附属明細書は作成していません。

平成28年6月

公益財団法人エイズ予防財団